

デーヴォ ガイド



2022.12.5-11

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

<39> 指揮者エドトンのために。ダビデの賛歌。

39:1 私は言った。私は自分の道に気をつけよう。私が舌で罪を犯さないように。口に口輪をはめておこう。悪しき者が私の前にいる間は。

39:2 私はひたすら黙っていた。良いことにさえ沈黙した。そのため私の痛みは激しくなった。

39:3 心は私のうちで熱くなりうめきとともに火が燃え上がった。そこで私は自分の舌で言った。

39:4 【主】よお知らせください。私の終わり私の年齢がどれだけなのか。私がいかにいかにいかを知ることができるように。

39:5 ご覧ください。あなたは私の日数を手帳ほどにされました。あなたの御前では私の一生はないも同然です。人はみなしっかり立ってはいても実に空しいかぎりです。セラ

39:6 まことに人は幻のように歩き回りまことに空しく立ち騒ぎます。人は蓄えるがだれのものになるのか知りません。

39:7 主よ今私は何を待ち望みましょう。私の望みそれはあなたです。

39:8 私のすべての背きから私を助け出してください。私を愚か者のそしりの的としないでください。

39:9 私は黙し口を開きません。あなたがそうなさったからです。

39:10 どうかあなたのむちを取り去ってください。あなたの手に打たれて私は衰え果てました。

39:11 あなたは不義を責めて人を懲らしめシミが食うように人の欲するものをなくされます。実に人はみな空しいものです。セラ

39:12 【主】よ私の祈りを聞いてください。助けを求める叫びに耳を傾けてください。私の涙に黙っていないでください。私はあなたとともにいる旅人すべての先祖のように寄留の者なのです。

39:13 私を見つめないでください。私が朗らかにになれるようにしてください。私が去っていなくなる前に。

詩人は罪ゆえの苦しみを、神様から与えられていたと思われます。それゆえ神様への不平不満を言わないようにと、「口に口輪をはめておこう。」と思っていたのでしょう。しかしそれができないほどの苦しみでした。

その中で人の命のはかなさや無力、無常感をまのあたりにするのです。しかしそれこそが神様の希望の入り口でした。後半にこの詩人は神様への信頼を切々と述べています。

このように神様への信仰は、順境のときよりもむしろ逆境のときに強くなるものです。その心構えをしつつ、主に依り頼みましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



6日 火曜

詩篇



<40> 指揮者のために。弦楽器に合わせて。
ダビデの賛歌。

40:1 私は切に【主】を待ち望んだ。主は私に耳を傾け助けを求める叫びを聞いてくださった。

40:2 滅びの穴から泥沼から主は私を引き上げてくださった。私の足を巖に立たせ私の歩みを確かにされた。

40:3 主はこの口に授けてくださった。新しい歌を私たちの神への賛美を。多くの者は見て恐れ【主】に信頼するだろう。

40:4 幸いなことよ【主】に信頼を置き高ぶる者や偽りに傾く者たちの方を向かない人。

40:5 わが神【主】よなんと多いことでしょう。あなたがなされた奇しいみわざと私たちへの計らいは。あなたに並ぶ者はありません。語ろうとしても告げようとしてもそれはあまりに多くて数えきれません。

40:6 あなたはいけにえや穀物のささげ物をお喜びにはなりませんでした。あなたは私の耳を開いてくださいました。全焼のささげ物や罪のきよめのささげ物をあなたはお求めになりませんでした。

40:7 そのとき私は申し上げました。「今私はここにきております。巻物の書に私のことが書いてあります。」

40:8 わが神よ私はあなたのみこころを行うことを喜びとします。あなたのみおしえは私の心のうちにあります。」

40:9 私は大いなる会衆の中で義を喜び知らせます。ご覧ください。私は唇を押さえません。【主】よあなたはご存じです。

40:10 私はあなたの義を心の中におおい隠さずあなたの真実とあなたの救いを言い表します。私はあなたの恵みとあなたのまことを大いなる会衆に隠しません。

神様が私たちの祈りを聞いてくださる目的はいろいろあるでしょう。その中でも、私たちの信仰の成長のため、そして御自身の栄光を表わすためということはそこに入っているとと言えます。詩人はここで、「引き上げてくださった」主の救いに感謝しつつ、信仰が成長し、栄光を表すことを明かにしています。

彼の信仰は「私はみこころを行なうことを喜びとします。あなたのおしえは私の心のうちにあります。」ということばに表されています。また彼は「あなたの真実とあなたの救いを告げました。」とあるように、証したのです。

主に祈り願いまししょう。それなしには恵みはありません。また勝利はありません。そして同時に自分自身の信仰の成長と、主の栄光が表わされることを求めましよう。その目的を持って、主に祈りましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



7日 水曜

詩篇



40:11 【主】よあなたは私にあわれみを惜しまないでください。あなたの恵みとあなたのまことが絶えず私を見守るようにしてください。

40:12 数えきれないわざわいが私を取り囲んでいるのです。私の咎が襲いかかり私は何も見ることができません。それは私の髪の毛よりも多く私の心も私を見捨てました。

40:13 【主】よみころによって私を救い出してください。【主】よ急いで私を助けてください。

40:14 私のいのちを求め滅ぼそうとする者たちがことごとく恥を見辱められますように。私のわざわいを喜ぶ者たちが退き卑しめられますように。

40:15 私を「あはは」とあざ笑う者どもが自らの恥に?然としますように。

40:16 あなたを慕い求める人たちがみなあなたにあって楽しみ喜びますように。あなたの救いを愛する人たちが「【主】は大いなる方」といつも言いますように。

40:17 私は苦しむ者貧しい者です。主が私を顧みてくださいますように。あなたは私の助け私を救い出す方。わが神よ遅れないでください。

神様が私たちの祈りを聞いてくださる目的はいろいろあるでしょう。その中でも、私たちの信仰の成長のため、そして御自身の栄光を表わすためということはそのこに入っていると云えます。詩人はここで、「引き上げてくださった」主の救いに感謝しつつ、信仰が成長し、栄光を表すことを明かにしています。彼の信仰は「私はみころを行なうことを喜びとします。あなたのおしえは私の心のうちにありま

す。」ということばに表されています。また彼は「あなたの真実とあなたの救いを告げました。」とあるように、証したのです。

主に祈り願いまししょう。それなしには恵みはありません。また勝利はありません。そして同時に自分自身の信仰の成長と、主の栄光が表わされることを求めましよう。その目的を持って、主に祈りましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



8日 木曜

詩篇



- 41:1 幸いなことよ
弱っている者に心を配る人は、
わざわいの日に 主はその人を助け出される。
- 41:2 主は彼を見守り 彼を生かし
地上で幸せな者とされる。
どうか彼を 敵の意のままにさせないでください。
- 41:3 主が 病の床で彼を支えられますように、
彼が病むとき 寝床から起き上がらせてください。
- 41:4 私は申し上げます。
「主よ あわれんでください。
私のたましいを癒やしてください。
私はあなたの前に罪ある者ですから。」
- 41:5 私の敵は 私の悪口を言います。
「いつ彼は死に その名は消え去るのだろうか。」
- 41:6 人が見舞いに来ても その人は嘘を言い
心のうちでは悪意を蓄え
外に出ではそれを言いふらします。
- 41:7 私を憎む者はみな 私についてともにささやき
私に対して悪を企みます。
- 41:8 「邪悪なものが 彼に取りついている。
彼が床についたからには
もう二度と起き上がれまい。」
- 41:9 私が信頼した親しい友が
私のパンを食べている者までが
私に向かって かかとを上げます。
- 41:10 しかし 主よ、あなたは
私をあわれみ 立ち上がらせてください。
そうすれば 彼らに報いを返せます。
- 41:11 このことによって私は知ります。
あなたが私を喜んでおられることを。
敵は 私に向かって勝ちどきをあげません。

- 41:12 私の誠実さゆえに 私を強く支えてください。
いつまでも あなたの御前に立たせてください。
- 41:13 ほむべきかな イスラエルの神 主。
とこしえから とこしえまで。
アーメン、アーメン。

病のときは心細く、自分がみじめにさえ感じます。
ましてや敵に「邪悪なものが 彼にとりついている。」
(8)などと言われたら、本当に立ち直れないでしょう。
自分はそのまで酷い扱いを受けるほど悪いことをして
いないと思って憤るかもしれません。
しかし自分は正しいのに…と思うのは、幸いなことな
のです。
正しさはその人の力になるからです。
ましてや「弱っている者に心を配る」(1)ような愛の人
は、必ずや主が「病の床で…支え」(3)てくださるので
す。
「私の誠実さゆえに 私を強く支えてください。いつま
でも あなたの御前に立たせてください。」(12)と、胸を
張って言える者でありましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の
約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願
いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなた
の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



9日 金曜

伝道者の書



1:1 エルサレムの王、ダビデの子、伝道者のことば。

1:2 空の空。伝道者は言う。空の空。すべては空。

1:3 日の下でどんなに労苦しても、それが人に何の益になるだろうか。

1:4 一つの世代が去り、次の世代が来る。しかし、地はいつまでも変わらない。

1:5 日は昇り、日は沈む。そしてまた、元の昇るところへと急ぐ。

1:6 風は南に吹き、巡って北に吹く。巡り巡って風は吹く。しかし、その巡る道に風は帰る。

1:7 川はみな海に流れ込むが、海は満ちることがない。川は流れる場所に、また帰って行く。

1:8 すべてのことは物憂く、人は語ることをさえない。目は見て満足することがなく、耳も聞いて満ち足りることがない。

1:9 昔あったものは、これからもあり、かつて起こったことは、これからも起こる。日の下には新しいものは一つもない。

1:10 「これを見よ。これは新しい」と言われるものがあったても、それは、私たちよりはるか前の時代にすでにあったものだ。

1:11 前にあったことは記憶に残っていない。これから後に起こることも、さらに後の時代の人々には記憶されないだろう。

旧約聖書は大きく3つに分けられ、伝統的に「律法」「預言」「聖文書」とされてきました。この伝道者の書は「聖文書」に含まれます。その中でもこの書は特に「知恵文学」とも呼ばれ、人の視点

にも立ちながら神のみこころを指し示すという内容になっているものです。

伝道者の書は「空の空」というように、一見空しい人生観を語っているようですが、これは後にわかるように、神がないかとするなら「すべてが空」であるということです。

神様の存在を信じ、その尊い救いにあずかり、また限りない愛と恵で今も生かされていることは疑いのない事実ではあります。しかし時にはノンクリスチャンの方々がどのように考え、感じ、葛藤しているのかということ、考えてみるのも大切なことです。

もしも神様とその救いがなければ、このみことばのようにむなしいことを、改めて知って、実際に生きておられる愛の神様に感謝しましょう。

またノンクリスチャンの状態にも心を配り、それを否定するよりも、むしろ愛を持って理解しましょう。またそこから生まれる深い交わりと祈りによって、空しさから希望に変わる永遠の福音を届ける「伝道者」となりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



10日 土曜

伝道者の書



1:12 伝道者である私は、エルサレムでイスラエルの王であった。

1:13 私は、天の下で行われる一切のことに ついて、知恵を用いて尋ね、探し出そうと心に決めた。これは、神が人の子らに、従事するようにと与えられた辛い仕事だ。

1:14 私は、日の下で行われるすべてのわざを見たが、見よ、すべては空しく、風を追うようなものだ。

1:15 曲げられたものを、まっすぐにはできない。欠けているものを、数えることはできない。

1:16 私は自分の心にこう言った。「今や、私は、私より前にエルサレムにいただれよりも、知恵を増し加えた。私の心は多くの知恵と知識を得た。」

1:17 私は、知恵と知識を、狂気と愚かさを知ろうと心に決めた。それもまた、風を追うようなものであることを知った。

1:18 実に、知恵が多くなれば悩みも多くなり、知識が増す者には苛立ちも増す。

神なき価値観に空しさを覚えることは大切なことです。仕事でも子育てでも人間関係でも勉強でも、買い物や趣味でも、もしもその目的ややりがいに神の存在がないまま満足していたなら、その人の人生はだんだんと神から遠ざかってしまうでしょう。本書の著者と思われるソロモンが、王として考えられる全てを手に入れた後でさえ感じた「すべてがむなしなことよ」ということばは、熟慮に値するものです。

ソロモンは栄光の王ダビデの子として生まれ、ダビデ以上の栄華を手に入れましたが墮落し、その後信仰が回復してから、この書を書いたとされています。

ます。どんな栄華を手に入れても、神様から離れている人生はむなししいということを覚えましょう。

中には大きな試練にあつてから初めてそのことに気づく人も、少なからずありますが、その前に神に立ち返ることは感謝です。思いと生き方が神様がら離れて、あとから「むなしかった」と後悔することのないようにしましょう。

著者は知恵を用いて、人間の「すべてのわざを見」ようと、人文科学的な研究をしたようです。しかし、その人間自体が「むなししい」ものなので、「風を追うような」実態のないものとなったと告白しています。活字でもインターネット上でも無限といつていいほどの情報がありますが、すべては消えてしまうものです。それらを追って知恵を求めても、むしろ「悩みも多くなり」ます。

神のみこころと目的とご計画による価値観で生き、知恵を求めましょう。また情報を生かしましょう。それがなければ、ただ疲れるだけです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？





2:1 私は心の中で言った。「さあ、快楽を味わってみるがよい。楽しんでみるがよい。」しかし、これもまた、なんと空しいことか。

2:2 笑いか。私は言う。それは狂気だ。快楽か。それがいったい何だろう。

2:3 私は心の中で考えた。私の心は知恵によって導かれているが、からだはぶどう酒で元気づけよう。人の子がそのいのちの日数の間に天の下ですることについて、何が良いかを見るまでは、愚かさを身につけていよう。

2:4 私は自分の事業を拡張し、自分のために邸宅を建て、いくつものぶどう畑を設け、

2:5 いくつもの庭と園を造り、そこにあらゆる種類の果樹を植えた。

2:6 木の茂った森を潤すためにいくつもの池も造った。

2:7 私は男女の奴隷を得、家で生まれた奴隷も何人もいた。私は、私より前にエルサレムにいただれよりも、多くの牛や羊を所有していた。

2:8 私はまた、自分のために銀や金、それに王たちの宝や諸州の宝も集めた。男女の歌い手を得、人の子らの快楽である、多くの側女を手に入れた。

2:9 こうして私は偉大な者となった。私より前にエルサレムにいただれよりも。しかも、私の知恵は私のうちにとどまった。

2:10 自分の目の欲するものは何も拒まず、心の赴くままに、あらゆることを楽しんだ。実に私の心はどんな労苦も楽しんだ。これが、あらゆる労苦から受ける私の分であった。

2:11 しかし、私は自分が手がけたあらゆる事

業と、そのために骨折った労苦を振り返った。見よ。すべては空しく、風を追うようなものだ。日の下には何一つ益になるものはない。

著者は「快楽」もまた、神がなければむなししいということを体験的に証しています。ここには世の人々が願うような楽しみを、良くも悪くもすべて記されていますが、それらを実体験した正直な結論が「すべてむなししいことよ。風を追うようなものだ。」というのです。

(哲学の歴史の中には、『神がいないのならこの世には価値基準がない。ならば我慢するよりも快楽を求めよう。』という主張もありました。実存主義という哲学を信奉するある人々も、『世の中はただ存在だけがあって普遍的な価値観などというものは無い』という主張のもとに、自分の内側だけの世界に浸ったり、快楽主義に陥り不道德な生き方を提唱するようにさえなってしまったのです。伝道者の書は、「神がいない」という前提を持つなら、そのような生き方を否定できなくなると論じているわけです。)

私たちは、ああなったらいい、これが欲しいと色々な欲求や願望がありますが、そのような思いに惑わされないようにしましょう。またここにあるように、事業の拡大、邸宅の建築、造園、農業、雇用者の加増、財産の拡充、資産の運用、芸術の享受などにいそんでいる人は、むなしかったということのないようにしましょう。それには、この書が後に記すように、「神を知る」ことと、神を恐れる」ことです。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？

